

三井不動産が運営する商業施設内の店舗にて RFID を活用した店舗の商品情報読み取り実証実験を実施

～ICT の活用によるオムニチャネル化を加速～

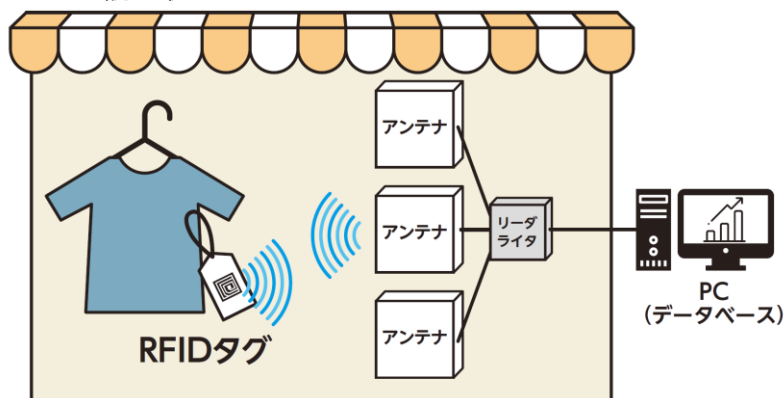
本リリースのポイント

- ・各分野で注目されている RFID を商業施設全体で活用することは初の試み
- ・RFID の活用により、「商業施設のオムニチャネル化」を推進

三井不動産株式会社(所在:東京都中央区 代表取締役社長 菰田正信)は株式会社ビームス(所在:東京都渋谷区 代表取締役社長 設楽洋)、大日本印刷株式会社(所在:東京都新宿区 代表取締役社長 北島義斉、以下 DNP)と共同で、商業施設内における商品情報の自動データ化を目的として、2月13日(木)から4月24日(金)までの期間、RFID (Radio Frequency Identification)を活用した商品情報の読み取りについての実証実験を行うことを決定しました。

RFID とは、読み取りアンテナから発する電波により、非接触で RFID タグに入力されている情報を読み書きする技術で、経済産業省によるコンビニエンスストアでの実証実験が行われるなど、様々な分野での活用が注目をされています。株式会社ビームスが運営する「B:MING LIFE STORE by BEAMS」でも、2017年3月に全店舗への RFID 導入を完了しています。また、DNP でも、「RFID を活用したサプライチェーンにおける情報共有の実証実験」へ参画する等の取り組みを行っています。

・RFID タグ読み取りのイメージ



店舗内にあるアンテナにより RFID タグを読み取り



実際に使われている RFID タグ

本実験では、三井ショッピングパーク ららぽーと TOKYO-BAY、ららぽーと立川立飛に出店している「B:MING by BEAMS」店舗内に複数の RFID 読み取りアンテナを配置し、商品に取り付けられた RFID タグ情報の自動読み取りを行います。この技術を用いて店舗内の商品在庫情報を自動的にデータ化することができるようになります。

これまでの商業施設では、お客さまが各ショップにどのような商品が置いてあるかを事前に把握することは出来ませんでした。また、欲しい商品があったとしても、その商品がどのショップにあるかを把握することが出来ませんでした。今回 RFID を活用することで、これらの問題は解決され、お客さまは事前に買いたいものがショップにあるかを調べ、またその商品がどのショップで取り扱っているかも把握することでより利便性の高いショッピングを体験できます。

三井不動産が開発・運営を手掛ける商業施設では今後も様々な ICT 技術を活用し、商業施設のオムニチャネル化を推進することで、お客さまにより便利で快適な購買体験を提供していきたいと考えています。

【本実証実験の詳細について】

本実験では、店頭と店舗内倉庫で複数パターンの読み取りアンテナの設置をし、それぞれ異なる検証を行います。店頭ではいかに効率的に大量の商品情報を読み取ることができるかを検証します。一方で店舗内倉庫では、倉庫内の商品だけはいかに正確に読み取ることができるかを検証し、それぞれの空間に対して最適なアンテナ配置方法を確立します。

また読み取りアンテナからの電波は、広範囲の商品を瞬時に把握できる一方で、壁などの障害物も貫通してしまうため、限られた空間の読み取りについては不向きな側面も持っています。そのため、今回一部の店舗内倉庫や試着室については、壁面や天井内部にあらかじめ金属板を入れ込み、電波が限定された一定の区画を作り出すことによって、当該区画内の商品だけを正確に把握できるかの検証も行います。限られた空間内の正確な在庫情報を取得することができれば、店舗での適正な在庫管理にも活用することができるようになります。そのほかにも、読み取られた商品情報を実際に活用することでの、販促効果についても検証を行います。

【本実験での検証内容】

- ・店頭商品の読取精度、読取範囲の検証
- ・店舗内倉庫商品の読取精度の検証
- ・店頭で読み取った商品情報の、来館者へのメール告知による効果測定

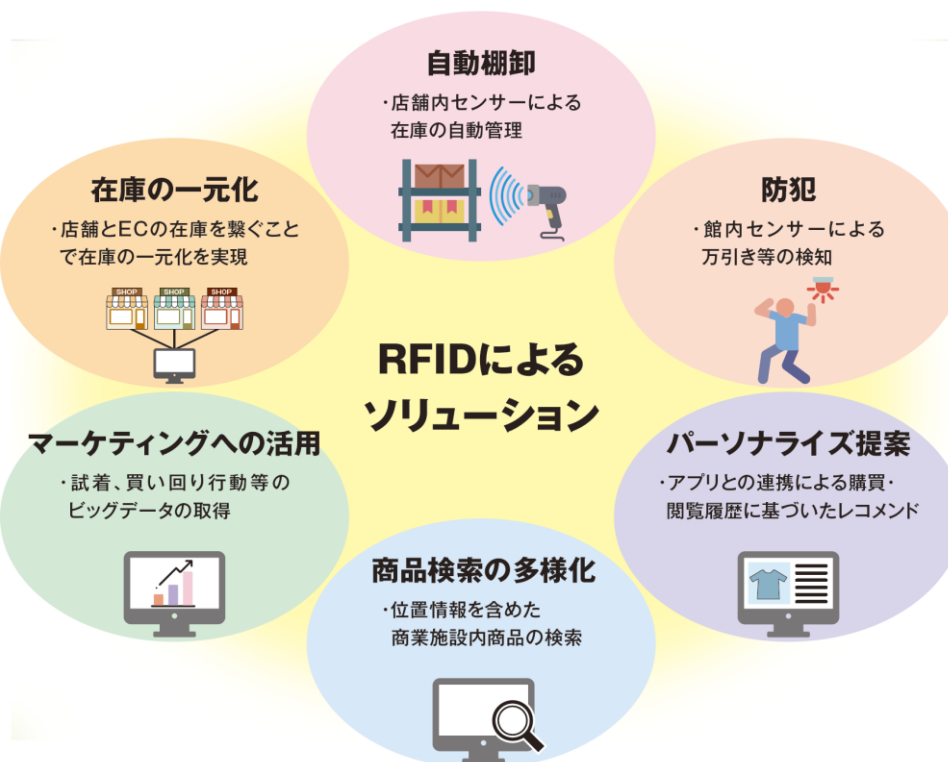


RFID 活用のスキーム図

【RFID 活用により期待できる効果】

RFID の活用によって商業施設内の商品情報を自動データ化し、活用することによって、そのほかにも様々な付加価値を生み出すことができると期待しています。お客さまに対しては、各商業施設への来館者の好みに合わせた商品紹介や各店舗における商品の検索・閲覧ができるようになります。一方で出店者に対しては、自動棚卸による省人化や万引き検知のような防犯への活用等、お客さまだけでなく出店者に対してもこれまでになかった新しいサービスを提供できるようになると考えています。

また三井不動産株式会社では 2017 年よりららぽーと公式通販サイトとして「Mitsui Shopping Park &mall」のサービスを開始しており、出店者は RFID で読み取った店舗内商品情報を連携することで、「&mall」を通じて商品も販売できるようになります。



将来的な RFID 活用によるソリューションの一例

【三井不動産の商業施設における ICT の活用について】

三井不動産が開発・運営を手掛ける商業施設では、ICT の活用を積極的に進めています。例えば、ららぽーと豊洲など一部の施設では、今後の人材不足等を見据えて、清掃ロボットの活用による施設管理業務の省人化に取り組んでいます。また、ららぽーと EXPOCITY では、人間に酷似したアンドロイドや小型の人間型ロボットによる対話サービス実現を目指した実証実験に取り組んでいます。三井不動産では、今後一層多様化する消費者の購買ニーズに対応していく新しい商業施設の実現に向けた、商業施設のオムニチャネル化を推進してまいります。

■実証実験の実施概要

・三井ショッピングパーク ららぽーと立川立飛

期間:2月13日～27日(予定)

店舗内(店頭)商品の読取実験

読取商品の来館者への告知

・三井ショッピングパーク ららぽーと TOKYO-BAY

期間:4月3日～24日(予定)

店舗内(店頭)商品の読取実験

店舗内(倉庫)商品の読取実験

■「三井ショッピングパーク&mall」について

「Mitsui Shopping Park &mall(アンドモール)」 URL:<https://mitsui-shopping-park.com/ec/>